



どうにかする力

泗水小学校だより
R4. 6. 13(月)
No. 8
校長 工藤竜一

【校訓】なかよく つよく しんけんに

【学校教育目標】自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～

スポーツテストを実施しました！（6月2日～）

本校の学校教育目標にある「生きる力」とは、知・徳・体をバランスよく身に付けた力のことです。その中の「体（健やかな体）」の力を測定するスポーツテストを実施しました。

子どもの体力低下が叫ばれて久しくなりますが、コロナ禍の影響でさらに深刻になっているとの報告も聞きます。昨年度は、各種目の本校の平均が県平均を上回ったのは半数以下になり、体力向上も本校の教育課題の一つに挙げられます。特に、ソフトボール投げや握力、立ち幅跳び、反復横跳びの結果が低く、投力・跳力などに課題があると言えます。

学校では、体育の授業で補強運動を毎時間行ったり、スポーツ委員会によるイベント開催などを通して、体力向上に取り組みたいと思います。運動部活動の社会体育への移行に伴い、子どもの体力の二極化も顕著になりつつあります。外遊びの奨励など、各ご家庭でもお子さんの体力向上に関心を高めていただくようお願いします。



1年生初挑戦！「20m
シャトルラン」の様子

☆校長室から独り言☆

子どもたちと向き合うための働き方改革

これまで、「子どものため」であれば長時間勤務しても良しとしてきた教師の働き方を見直すため、学校現場における「働き方改革」が求められています。教師にとっても子どもにとっても「時間」は有限です。優先順位をつけて時間を配分し直し、子どもたちに効果的な教育活動を行うことが求められています。働き方改革は、単純に勤務時間を減らすということではありません。教師がしっかりと休養を取ることで集中力を高めたり、自分の趣味などに打ち込むことで、いろいろなアイデアが生まれたり、人脈も増えたりします。そして、教師はリフレッシュして、子どもともっと正面から向き合うことができ、授業改善にもつながることが期待されます。

文部科学省は、「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」で、教師が、決められた勤務時間を超えて学校で勤務する時間の上限を、1ヶ月45時間、1年間360時間以内と定めました。これは、「菊池市立小中学校管理規則」にも規定されています。本校職員の昨年度の勤務時間を超えた1ヶ月の在校時間の平均は、45時間55分で上限を超えていました。ICTの効果的な活用、行事・会議・研修等の精選、部活動の廃止など取り組んできましたが、それでもなお、在校時間の削減は道半ばの状態です。

さらに、学校現場の長時間労働というブラックな部分ばかりが報道されて、教師を目指す若者が激減し、人材確保に苦慮するという負のスパイラルが起こりつつあります。今年度の教員採用選考考查は、小学校教諭の倍率が、熊本県1.2倍、熊本市1.8倍と減少傾向に歯止めがかかりません。

教師の魅力は、子どもたちが成長する瞬間に立ち会うことができることにあり、素晴らしい仕事です。先日も正門で登校指導をしていると、「校長先生、いつもありがとうございます。」と声をかけてくれた子どもがいました。さらに保護者の方に、「学校だよりいつも読んでいます。校長先生のご家族の話を楽しみにしています。」と声をかけていただき、「よし、今日も頑張ろう。」と思いました。教師とは、こんな些細な声かけや励まして、元気やエネルギーが湧いてくる職業なのです。子どもたちと向き合うための働き方改革は、保護者の皆さまの温かい眼差しや言葉かけから始まる改革でもあると私は思います。

我々教職員は、この素晴らしい仕事に誇りをもち、もっと魅力を発信しながら、働き方改革を進めていると思います。今後もご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。